

令和3年度

静岡県保育連合会総会 並びに所長研修会 開催

期日 令和三年四月二十七日
会場 静岡市民文化会館

令和三年四月二十七日に静岡市民文化会館にて「静岡県保育連合会総会並びに所長研修会」が行われました。新型コロナウイルス流行の為、二年ぶりに集合形式での開催となりました。会場は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、座席は横に一席ずつ、縦に列ずつ開け、換気効率を上げた中で、加入園六四八施設中二〇七人の出席（委任状出席三一七人）により開催されました。

静岡県保育連合会総会では、富士市中里保育園の青野貴芳園長の司会により開会され、土山雅之会長、来賓挨拶の後、議長選出、総会議事が行われました。

土山会長の挨拶では、来年度に向けて静岡県保育連合会を一般社団法人化し、連合会の信頼性、継続性を高めていくことを説明されました。また、今後も保育園やこども園等は、様々な変化の中、最も子どもにとって身近な場となり、制度、質の両面から最大限の努力をしていくことが望まれると言及されました。

続いて、静岡県健康福祉部理事（少子化対策担当）南野剛様、静岡県社会福祉協議会常務理事高橋邦典様からご祝辞を頂きました。南野理事からは保育者に対する慰労金について、今後の感染対策とその後について県としての物資支援や働く人の相談支援を継続して行くことや、安心して子育て出来る環境整備

を行うこと、保育士試験の準備講座等の開催にあたり現場の声を聴きながら開催していく旨のお話を頂きました。

高橋常務理事からは児童福祉法や児童虐待防止法など子どもの権利擁護に関することや、地域における家庭や予防的アプローチなど、保育士の役割拡大について言及されました。また、最も重要な福祉人材確保についても触れられ、静岡保育所支援センターを三名体制で行うことなど、保育者の定着を促すことを示されました。

次に総会に移り、浜松市みどりのもり都田の下原直美園長が議長に、静岡市立小河内こども園の園田佳美園長が副議長に選出され議事に入りました。第一号議案の令和二年度事業報告及び収入・支出決算については、静岡市美和保育園望月ひろみ園長より令和三年四月九日に実施された監事監査において適正に執行された旨の報告がされ、第二号議案 会長指名理事の承認及び監事の選出、第三号議案 令和三年度事業計画及び収入・支出予算と審議され全議案は原案どおり承認されました。最後に新規加入園の紹介を行いました。

所長研修会では、学校法人リズム学園はやきた子ども園（北海道勇払郡）の井内聖園長による「ICTを活用した危機管理と業務改

善く子どもの豊かな体験と事務軽減を両立させるために」をテーマとした研修が行われました。井内氏は新型コロナウイルス感染拡大と保育者確保の二つの問題を災害と同じと捉え、その中で保護者等への「情報発信」に関していかに紙ベースであると制限がかり、デジタルが有効であるのかについて話をされました。井内氏のこども園では入園受付も紙ではなく、連絡もアプリ等を使用している例を挙げ、新型コロナウイルス感染拡大などの状況下で全員が集合できない時には、ICTが必要となってくる旨やエクセルやワードは紙ベースが必要となってくるので止めることを強調されていました。最後の二五分間の質問では、「エクセルやワードが無くなったらどこから取り組むべきか」という内容や「人材確保とICT化が結びつかないのだが、園の雰囲気や人間関係に關することはどうなのか」「ICT導入のメリットは理解できているが、情報漏洩の心配やその保険などのものはどうしているのか」など多くの質問が挙がりました。

